

2025 年度

開智国際大学「公開講座」報告

2026 年 3 月

開智国際大学

研究・図書・紀要委員会

目 次

はじめに	3
------	---

【テーマ】「戦後 80 年」の今、日本の歩みを見直す～近世、近代、現代～

戦後学校教育の原点「戦後教育改革」を検証する ～学校教育は何処へ向かうか？～	大木 匡尚	5
古文書が語る柏の江戸時代 一戸張村—	野本 禎司	7
「戦後 80 年」と日本の政治外交：講和問題（日独比較）の検討	清水 聡	9
戦後 80 年、日韓条約 60 年からみた韓国の歴史・政治・民主主義をどう見るか	坂井 俊樹	11
伊万里焼はなぜヨーロッパでよく売れたのか？ ～世界の動きからみる近世の日本～	山本 勝治	14

【一般講座】テーマ以外のさまざまな講座

チリモンを探せ ～海の小さな生き物～	千葉 秀一	17
ミニテニススキルアップセミナー（上級・初級）	高橋 早苗	20

女性のためのボクシング運動	小山 貴	21
日常生活に潜む比喻表現	榎山 泰斗	22
アンデルセンと未明 ——『人魚姫』と『赤い蠟燭と人魚』	佐々木 さよ	24
AI はアイアンマンのスーツか？ ～人間の可能性を拡張する生成 AI～	符 儒 徳	27
東南アジアのヒンドゥー教と中国宗教	古賀 万由里	35
不老不死を目指して～道教とは何か？～	三枝 秀子	37
キャリア・デザインに活かす小倉百人一首の知恵	森谷 一経	39
講座一覧（リーフレットより抜粋）		42
奥 付		44

※受講申し込み者数の都合で未開講となった講座等については、報告書の掲載がありません。

はじめに

本年度の特集テーマは「戦後 80 年」の今、日本の歩みを見直す～近世、近代、現代」です。戦後教育改革の検証や講和問題の検討、韓国の歴史など、戦後の国政や外交に関わる問題について解説されました。また、江戸時代の柏や、戦国時代の日本とオランダの関係についての歴史が、捉え直されました。国際社会では紛争や戦争のリスクが高まり、複数の地域で不穏な動きが生じています。戦後の歴史の検証は、現代でも止まない戦争の原因や解決にとって重要であるといえます。

一般講座では、親子で参加できる理科実験は、定員を上回る申し込みをいただきました。ミニテニスとボクシングは、長年参加されている方の参加が多かったです。その他、日本語の比喩表現や、アンデルセンと小川未明の作品、AI、道教、キャリアデザインと古典文学など、講師の専門性を生かした講座が開講されました。熱心な受講生から質問を受けたり、議論を交わしたりすることによって、講師によっても充実した時間となりました。

今後も、知的好奇心を満たし、楽しみながら学べるような講座を開いていきたいと思えます。長年受講していただいている方はもとより、新しい方の参加もお待ちしております。

2026 年 3 月

研究・図書・紀要委員長

古賀 万由里

2025 年度
開智国際大学公開講座報告

講座名	戦後学校教育の原点「戦後教育改革」を検証する ～学校教育はどこへ向かうか？～		
講 師	大木 匡尚	所 属	教育学部 准教授

<実施概要>

日時	実施概要
2025 年 10 月 20 日 (月) 13 : 00-14 : 30	六・三制、男女共学化、社会科など新教科の開始…、学校教育の戦後 80 年の歩みは、まさに「戦後教育改革」から始まりました。この講座では、過去の新聞や資料、講師のこれまでの研究論文を活用したオリジナル・テキストを用いて、戦後教育改革を多面的・多角的に検証しました。参加者は 5 名、10 代から 80 代まで幅広い年代層の方の意欲的な受講により、文字通り、「主体的・対話的な深い学び」の空間になった。

<講師報告>

講義の概要は以下のとおりである。

(1) はじめに —「新制中学校」から戦後教育を考える—

(ア) 大山隆玄氏 (1934-、高尾山薬王院第 32 代貫主) の回想を手掛かりに、「戦後教育改革」の中で誕生した新制中学校の教育史的意義を考察した。

(イ) 中学校とそれに関係する世相を 10 年刻みで遡り、受講生自身と、検討対象である戦後教育史の原点たる「新制中学校」の成立期との相違点を探究した。

(ウ) 新制中学校発足時の新聞記事や国会議事録などを辿り、1947 年 4 月に発足した新制中学校は、人口に膾炙している「GHQ 押付けによる新制中学校発足」という側面ばかりでなく、国民が待望していたことを跡付けつつ、その発足には、校舎不足、教科書不在、教員不足など、種々の困難があったことを受講生と考察した。

(2) 戦時中の教育改革に見る「新制中学校」の芽

(ア) 戦時中に 8 年間への「義務教育延長」を掲げて、1941 年の国民学校令に基づいて設置された「国民学校」は、初等科 (6 年) と高等科 (2 年) で構想されていたので、国

民学校高等科は新制中学校の前身の「ひとつ」であったことを考察した。

(イ)また、同時期の1942年度の学級児童数基準の低減、1943年の師範学校の官立化に伴う修学年限延長で、教員不足は拍車がかかっていたことを探究した。

(ウ)1943年の師範学校の官立化、すなわち高等教育化が、戦後の大学における教員養成と同一の地平にあることを考察した。

(3) 戦後教育改革における「新制中学校」の成立

(ア)敗戦、そして新教育への道の概略を確認し、とくに1945年12月31日、GHQが「日本の教育制度の管理について」「教育関係者の資格について」「国家神道について」「修身・国史・地理の中止について」からなる「四大指令」の意義、第一次米国教育使節団訪日(団長ストダード博士、1946年3月)の意義について考察した。

(イ)新制中学校の淵源も『第一次米国教育使節団報告書』にあったが、「平和国家」「民主国家」「教育立国」の樹立を求める動きは、敗戦によって破壊され、否定された戦前の信念体系に代わる新しい価値体系を求める日本国民の願いから生じたものであり、この流れから、国民も新制中学校設置を待望したことを探究した。

(ウ)高まる世論に動かされる形で、吉田茂首相は、1947年2月26日の臨時閣議で、六・三制の開始、そして新制中学校の設置は同4月1日からと決定したことを、当時の新聞等によって考察した。

(4) 創設時の「新制中学校」の事例

(ア)千葉県東葛飾郡柏町ほか旧柏市域の場合

(イ)神奈川県川崎市の場合

(ウ)東京都南多摩郡七生村の場合

(エ)東京都千代田区の場合

① それぞれ、校舎・教職員組織・教科書について検討。

② 当時、文部省の示す学習指導案は「試案」であって拘束性はなく、カリキュラムは各学校で独自に作成するものとされた。従って、1948年前後に空前のカリキュラム作成ブームがおこったことを、実際の史料を用いて探究した。

③ また各自治体では、基準となる「基底カリキュラム」(カリキュラムの基底)の作成が進められたことを、実際の史料を用いて探究した。

(5) 戦後教育改革の展開と今日的課題

(ア)経験主義に基づく新教育に対して、学力低下・不道德な児童生徒を輩出するとの批判が起こり、1955年以降、急速に系統主義へと旋回したことを考察した。

(イ)全国画一的な学校・教育課程・教科書が使用されるようになり、高度経済成長を支える「大衆教育社会の到来」を教育が支えるようになったことを探究した。

(ウ)今日の学校教育の課題を考える際に、戦後の出発点である新制中学校の成立とその変容の過程を考えることが重要であることを共有して、講義を終了した。

2025 年度
開智国際大学公開講座報告

講座名	古文書が語る柏の江戸時代—戸張村—		
講 師	野本 禎司	所 属	教育学部 准教授

<実施概要>

日時	実施概要
2025 年 12 月 5 日 (金) 10 : 40-12 : 10	柏市内に残された古文書を読み解きながら、江戸時代における戸張村の領主（旗本三橋氏）と村役人（名主）の関係を中心に解説します。

<講師報告>

本講座では、「古文書が語る柏の江戸時代」をテーマに、本学が立地する戸張村を具体例として、柏市教育委員会収蔵の濱島照佳家文書（以下、使用史料の出典は整理番号のみ記す）を使用しておこなった。濱島家は、戸張村の名主をつとめた家である。講座内容は、「はじめに／1、江戸時代後期の戸張村のようす／2、旗本三橋家の家政運営と村役人の変化／おわりに」の構成とし、配布資料とパワーポイントで古文書の撮影画像等を映して実施した。

「はじめに」では、柏市域の江戸時代の村々の領主（「殿様」）が、旗本という武家が多いことを確認した。旗本とは、1万石未満の領地（「知行所」）を支配し、徳川将軍に代々拝謁（「御目見」）できる武家で、5200家ほどあった。彼らは大名とは異なり、①江戸幕府の役人（「幕府官僚」）であること、②家臣団が少なく、その入れ替わりが激しいこと、③その知行所の多くが関東に配置されていることなどの特徴を説明した。

「1、江戸時代後期の戸張村のようす」では、戸張村の領主である旗本・三橋家について、江戸幕府において務めた役職などを初代当主から明治維新を迎える9代当主まで概観した。また、三橋家の知行高は313石余であり、その知行所は戸張村以外に、現在の千葉県白井市、船橋市、松戸市、野田市に1村ずつあり、分散されていることを確認した。ここで戸張村のようすを具体的に知るため、安永9年（1780）3月「乍恐以書付奉願上候（名主退役願）」（B-6）の内容を紹介した。この史料は戸張村の村役人たちが作成した領主への願書で、村のリーダーである名主を投票で選出していること、また戸張村は「殿様御用」だけでなく、「原・沼両新田」（手賀沼縁の新田開発地の負担）、「御鷹場御用」（水戸藩の鷹場支配にともなう負担）、「御野馬御用」（徳川将軍家の馬の管理にともなう負担）、そのほか「取次御用」が多くて難渋していることがわかる。江

江戸時代後期の戸張村の百姓たちは、領主への年貢だけでなく、さまざまな種類の負担があり、その責任を負う名主や組頭などの村役人になることを避ける傾向があった。

「2、旗本三橋家の家政運営と村役人の変化」では、2点の古文書を紹介した。1点目は、寛政10年(1798)「入置申年賦証文之事(地頭所暮方難渋ニ付)」(A-48)で、知行所村々名主が、領主三橋家の家計管理(「御台所御賄」)を任せている毛利長門という人物への借金返済に関する証文である。江戸時代後期になると多くの旗本は家計管理を家臣ではない、江戸の町人や武士などに任せており(「金主」)、三橋家では他家の武士と思われる毛利長門に金主を担当させていた。2点目は、文政3年(1820)1月「借用申年賦証文之事(御台所賄い金仕送り滞りに付)」(A-23)で、金主への返済が滞っている「御台所賄金」を年1両ずつ知行所村々が返済することを取り決めた証文である。この史料には「三橋長十郎内 濱島武兵衛」と奥書あることが注目される。戸張村の名主であった濱島家の当主が、三橋家の家臣となり、百姓から一時的に武士身分となっているのである。ここでみたように旗本は家計管理(「御台所御賄」)を家臣以外に任せることが頻繁にあり、金主への賄金の返済が滞るようになると、その返済をとりまとめてもらうため知行所村の名主たちを家臣とする場合がみられ、これは旗本領主支配の特徴であった。

「おわりに」では、一時的に武士身分となる百姓たちの研究上における評価(「身分的中間層」)やその特質について解説しまとめとした。

講座には19名の方が参加されており、最後に質問や意見などを頂戴した。古文書の解読に関する質疑応答に加え、柏市内の地域の有力者について教えていただくことがあり、担当者にとって柏市域のことを知る貴重な機会ともなった。なお日頃の古文書調査にあたっては柏市教育委員会生涯学習部文化課の皆さまに大変お世話になっており、2023年度より柏市の古文書講座(「郷土史料講読会—古文書に見る柏の歴史」)の講師も担当させていただいている。この場を借りて、参加者及び柏市教育委員会生涯学習部文化課の方々に感謝申し上げたい。

2025 年度 開智国際大学公開講座報告

講座名	「戦後 80 年」と日本の政治外交：講和問題（日独比較）の検討		
講 師	清水 聡	所 属	国際教養学部 教授

<実施概要>

日時	実施概要
2025 年 12 月 5 日（金） 13：00-14：30	戦後日本の政治外交について取り上げます。講座の狙いは講和問題（日独比較）ですが、その関連分野として、敗戦、日本国憲法制定過程、占領と経済・社会、東アジアの冷戦など、幅広い情報を扱います。

<講師報告>

「戦後 80 年」と日本の政治外交：講和問題（日独比較）の検討」を講座名として、11 人の受講者の参加により、公開講座を実施した。

「戦後 80 年」という節目に日本の歩みを問い直す作業は重要であり、そのような課題に関心を持つ熱心な受講者が会場に集まった。

講師は最初に、公開講座のおおよその内容として、戦後日本の政治外交について取り上げること、講座の狙いは講和問題（日独比較）だけども、その関連分野として、敗戦、日本国憲法制定過程、占領と経済・社会、東アジアの冷戦など、幅広い情報を扱うことを伝えた。また最初に、講師が実際に訪れた外務省外交史料館展示室の様子を、その時に撮影した写真を使用しながら説明することで、日本の政治と外交の特徴に注意すること、またその上で、講座の内容を以下のように第一部と第二部に分けることを伝えた。

「第一部 戦後日本政治史（1945～55 年）」では、敗戦と占領、日本国憲法の制定過程、極東国際軍事裁判（東京裁判）、占領改革と戦後の経済・社会、東アジアの冷戦と占領政策の転換、国際環境と日本政治、占領政策の転換と日本の経済・社会、講和と安保、「55 年体制」など、一方で、広く知られている情報を取り上げつつ、他方で、それぞれの出来事が、戦後と冷戦という国際環境の影響をうけながら、相互に強く関連している状況について解説を進めた。

「第二部 講和問題（日独比較）の検討」では、「ドイツ問題」、「ベルリンの壁」、「1989 年」、東西ドイツの統一（1990 年）について簡潔に説明した後、「極東情勢と欧州情勢の連関」について検討を

試みた。具体的には、①1951年9月5日にサンフランシスコ講和会議で発表されたソ連の対日講和案（グロムイコ提案）と、②1952年3月10日に米英仏に提案されたソ連の対独講和案（スターリン・ノート）をめぐる日独講和問題の比較検討であり、ソ連の対極東外交と対欧州外交とが、相互に影響を受けている様子の説明が行われた。

講座の終盤では講師と受講者との間で意見交換（高市政権の対中外交と日中関係、憲法をめぐる問題など）も行われ、「戦後80年」の歩みを問い直す貴重な時間を共有することができた。

2025 年度 開智国際大学公開講座報告

講座名	戦後 80 年、日韓条約 60 年からみた韓国の歴史・政治・民主主義をどう見るか		
講 師	坂井 俊樹	所 属	教育学部 教授

<実施概要>

日時	実施概要
2025 年 12 月 9 日 (火) 2025 年 12 月 16 日 (火) 13 : 00-14 : 30	日本人の認識が薄い植民地支配から解放された韓国の戦後史を、民主主義と歴史認識問題を中心に考え、その上で李在明政権下の韓国への向き合い方を考えます。

<講師報告>

隣国である韓国は、1910 年から 1945 年まで、日本の植民地として統治・支配されてきた。1945 年は、日本は敗戦、韓国は植民地からの解放の年である。今年、戦後 80 年、韓国では解放 80 年の記念となる。日本と韓国が正式に国交が回復したのは、1965 年 6 月である。実に戦後 20 年間も、断絶のままだった。北朝鮮とは現在も断絶のままである。

植民地支配者、被植民地支配者たちの経験や記憶のすれ違いはありながらも、植民地支配が終焉した両国の戦後 80 年の歩みは、あまりにも違っていた。歴史認識や政治意識が日韓で大きく異なるということである。

現在の韓国政治や歴史認識のあり方に対して、日本人のなかには、韓国を批判的に見る風潮も指摘できよう。韓国は歴史にこだわりすぎ、何度謝罪すればよいのか、韓国は政治が不安定、大統領経験者が逮捕されることが多い、激高しやすく激しい国民性などなど。

本講座は、2 回にわたり、韓国人の多くに潜む、政治性や歴史認識について、どんな特徴があり、またどのような地政学的制約、歴史過程と関連しているのか、受講者と議論しながら考えていきたいというものである。

【第一回】

・初めに 国の土台の韓国憲法前文と日本国憲法前文を比較して、韓国の歴史性・民族性重視の在り方と日本の普遍主義の在り方との違いを考える。「どうして韓国の憲法（民主主義）は伝統の重視になるのか？」を受講された方に問いかけた。

この韓国憲法の特徴が、韓国の戦後史の中で如何に作り上げられてきたか、つまり民主主義の考え方・捉え方の違いとなって人々に理解されている、その根源を探ることである。

○まず前提として、いくつかのことを講義していく。江戸時代から朝鮮戦争まで扱う。国家間の良好な関係、つまり親善友好とはどのように構築されていたかを江戸時代・朝鮮時代の朝鮮通信使を取り上げて考えた。題材は、8代将軍徳川吉宗の時代の第8次朝鮮通信使を見ることにした。この第8次の朝鮮通信使の制述官の申維翰（シンユハン）の残した日誌＝「海游録」には、方広寺（京都大仏寺）一件が詳述されているが、申維翰（シンユハン）と日本側接待・案内役、雨森芳洲との間で国の面子の対立があり、ギリギリのところではぶつかり合いを回避した知恵と、それと二人の間の友情が描かれている。歴史的にみると国と国の関係も、双方の個人的な信頼関係の重要性を示した事件であった。

○こうした関係も崩れ、やがて 1910 年の「韓国併合」によって日本の植民地化が進められた。朝鮮を蔑む風潮が日本国民に醸成された。その上で、日本人の中にいた少数だが植民地化を憂いたり、反対する人も存在したことを指摘する。

ここではこの我孫子に居住していた大正期「白樺派」文学運動の中心にいた柳宗悦（美術評論家）を取り上げ、彼が総督府による景福宮の正門（光化門）の破壊しようとする動きを何とかをとどまらせさせた主張を紹介した。

○植民地支配に抵抗し朝鮮民族の独立を主張した 1919 年の 3.1 独立運動を取り上げた。「独立宣言文」にかかっている内容を紹介した。そこには日本の批判ではなく、より普遍的な民族自立の必要性や民族的価値がうたわれていたことを紹介した。先の韓国憲法の土台の一つに、この独立宣言文の主張が組み込まれている。韓国現代史の出発点といえる。

○1945 年 8 月 15 日、朝鮮半島は植民地から解放された。人々は南北朝鮮が一体となって新しい朝鮮民族の国家樹立をめざしたが、米ソの対立、大陸中国の建国、という流れのもとで、半島は二つの分断国家になっていった。ここでは朝鮮戦争を取り上げた。初代李承晩大統領は、反共政策を強く推進した。朝鮮戦争はとても悲惨な戦争で、アジア太平洋戦争と同じレベルの死傷者と国土の無残な状況をもたらし、1953 年 7 月に休戦条約を結び、戦時が継続したまま一時の休戦という異常な状況に留まることになった。この朝鮮戦争の疲弊からの立ち直りの過程が、韓国現代史ともいえる。

【第二回】

後半の授業では、韓国の歴代大統領変遷とその概略を伝える。受講生が高齢の方が多く、李承晩、朴正熙、全斗煥などの日本に関わりの強い大統領も知っており、講義が進行しやすかった。その上で朝鮮戦争から現代までの解放後の現代史を以下のように進めた。

○初代大統領の李承晩の独裁政治の展開とそれに対する民主化を求める市民、労働者、学生たちが立ち上がった 1960 年の民主化闘争（4.19 民主化運動）による政権交代と、その後の反動であ

る朴正熙の軍事クーデターによる軍事政権の樹立の過程。その後のベトナム戦争の激化と 1965 年の日韓条約の締結が進められたこと。日韓条約の経済支援金などを元手に韓国は、産業基盤の整備やダム開発などを進めることができた。

○独裁政権は、世界でも最も貧しい国の一つと言われた韓国の経済を何とか上から改革したいとの方向をめざした。そのためには市民、労働者、学生たちの民主化要求を弾圧してきた。1970 年に入り、朴正熙の大統領の長期政権を可能とした憲法改正が強行され、上から財閥などを育成する経済成長も軌道に乗り始めた。軍事政権下で、高度経済成長期を迎えることになった。しかし北朝鮮との対峙と人々の自由の抑制などが極端に進められた。

○朴正熙が狙撃され死亡したが、軍部将校の全斗煥がクーデターに軍事政権を再び構築した。この直後 1980 年 5 月に 光州民主化抗争が起こる。この事件を描いた韓国映画『タクシードライバー』の一部を視聴しながら、民主化への人々の思いを伝えた。市民・労働者・学生たちが軍事政権に立ちあがったが、戒厳令と軍部の武力弾圧、私服の秘密警察などによって徹底した武力弾圧により凄惨な状況となった。しかし、その後は伏流として受けつがれ、ついに 1987 年 6 月、民主化革命が達成された。ようやく軍事政権が終焉し、民主的選挙による大統領選出の道を開いた。こうした自力で勝ち取った民主主義は、制度だけではなく、民主的な意識として国民に広く醸成されていった。現代、韓国では保守と革新で激しい対立が見られるが、それでも共通に下からの市民的民主主義の重要さの意識は健在である。その根源は、冒頭に指摘した韓国憲法の前文の 3. 1 独立運動の精神と 1960 年の 4.19 民主化の精神の継承ということが示された点と関係していた。

○韓国では 2000 年代行、独裁、軍事政権下で名誉を失われた人々の真相究明と名誉回復が積極的に行われてきた。「移行期正義」といわれるが、この論理は、過去、自由と人権抑圧がいかにかいひどくおこなわれたかという点で追及する。この論理の延長で、日本の植民地支配期のさまざまな人権抑圧が問題とされる。植民地支配だけを特別視して糾弾する論理ではない、いわば普遍性を持っている。

○以上から、日本の韓国の国家としての基盤は、双方に自由と民主主義が共通しているといわれるが、そこには現代史の経験が異なる。市民の声が直接に政治に反映する韓国と選挙を通じてだけ主権が示せるという日本との違いである。こうした双方の現代史を詳しく知ることによって、他者としての韓国の政治文化や対日本観が知れるのではないか。

2025 年度
開智国際大学公開講座報告

講座名	伊万里焼はなぜヨーロッパでよく売れたのか？ ～世界の動きからみる近世の日本～		
講 師	山本 勝治	所 属	教育学部 准教授

<実施概要>

日時	実施概要
2025 年 12 月 11 日 (木) 14 : 40-16 : 10	戦国時代の日本はポルトガル領でした。どういことでしょうか？ 「鎖国」中の江戸時代にヨーロッパで唯一交易していたオランダ。 そもそも、なぜオランダのみ？ 世界史の大きな動きの中で、近世 の日本を捉えなおしてみます。

<講師報告>

講座の流れ

○ はじめに

- 公開講座テーマ「戦後 80 年」の今、日本の歩みを見直す～近世、近代、現代～」における本講座の位置づけ
- 本講座の趣旨説明と 90 分の流れ
- 講師の自己紹介

1. 16～17 世紀の日本と世界 ～本講座に関わる主な出来事～

- 本講座で扱う時代（戦国時代～安土桃山時代～江戸時代初頭）に日本と世界でおきた主な歴史上の出来事を取り上げた。特に本講座で扱う 3 つの問い「戦国時代の日本はポルトガル領？」「伊万里焼はなぜヨーロッパでよく売れた？」「幕府はヨーロッパでなぜオランダのみと交易？」について、世界の動きをふまえて考察するために必要な背景知識に焦点をあてるとともに、この時代の日本と世界の関係性や全体像がイメージできるようにした。

2. 戦国時代の日本はポルトガル領？

- 1494 年のトルデシリャス条約、1529 年のサラゴサ条約、等により、ポルトガルとスペイン

ンの両国は、植民地境界線を画定した。これによると、日本はポルトガル勢力圏とみなされ(サラゴサ条約による両国境界線は東経 134 度の子午線で、岡山付近を通っているが)、日本に来航したザビエルも、日本からローマ教皇のもとに派遣された天正遣欧少年使節も、途中、インドのゴアなどポルトガルの拠点を経由している。なお、天正遣欧少年使節が出発してから帰国するまでの時期は、スペインとポルトガルの両国が同君連合として合併しており、「太陽のしずまぬ国」であった。

3. 伊万里焼はなぜヨーロッパでよく売れた？

- 伊万里焼にまつわる焼物名の確認：伊万里焼・有田焼／古伊万里について。
 - ✓ 現在は、産地の呼称で、有田焼、伊万里焼、志田焼、波佐見焼、三川内焼、など。
- 伊万里焼の歴史
 - ✓ 伊万里焼は日本で最初の磁器。
 - ✓ 豊臣秀吉の朝鮮出兵の際に、朝鮮半島から陶工たちが日本に連れてこられた。
 - ✓ 朝鮮から連れてこられた陶工の一人、李参平が有田で陶石を発見し、伊万里焼がスタート。李参平は有田の「陶祖」として陶山神社に祀られている。
- 伊万里焼のヨーロッパへの輸出
 - ✓ 中国で明朝から清朝への交代期の混乱で、中国の陶磁器の一大産地である景德鎮窯が壊滅→オランダ東インド会社、1659 年から伊万里焼の輸出を開始
 - ✓ 伊万里焼の技術や芸術性は高く評価され、復興した景德鎮では伊万里焼を模した Chinese Imari も制作されるように。
- ヨーロッパでは 18 世紀まで磁器が作れず…
 - ✓ ドレスデン郊外のマイセンで磁土カオリンが発見→1709 年、磁器の制作に成功。

4. 幕府はヨーロッパでなぜオランダのみと交易？

- 17 世紀前半は、オランダが商業覇権を握って繁栄していた。
- オランダ独立戦争、オランダ東インド会社・西インド会社の設立
- オランダの拠点や占領地…バタヴィア（現ジャカルタ）、台湾、マラッカ、セイロン（スリランカ）、ケープ植民地、ニューアムステルダム（現ニューヨーク）
- 「なぜオランダのみ？」の答えの一つとしてのアンボイナ事件（1623 年）
 - ✓ モルッカ諸島のアンボイナでおきた虐殺事件→イギリスはインドに拠点を移す
- ヨーロッパ諸国の世界貿易の覇権の転換：ポルトガル→オランダ→イギリス

成果と課題

- 3つの「なぜ？」の問いを設定することで、世界の大きな動きの中に日本の歴史事象を位置づけて考察することができたのではないか。
- 陶山神社を訪れたことのある受講者が、鳥居が陶器製であることなどを話してくださった。
- 昨年度までと同じく、講義（説明）中心ではあったが、受講者と適宜対話しながら進めた。終了後にも質問や感想などもいただき、興味関心は持っていただけたのではないか。

- 今後、受講者同士がペアや小グループで議論する場も適宜組み込んでみたい。それも含めて、ワークショップ型の講座が出来ないか、その可能性についても探っていきたい。

<配布資料等>

- PowerPointのスライドを投影して説明するとともに、資料として受講者に配布した。

<参考文献>

1. 井上渚沙（2025年）「ジャポニスムの流行と影響」成田龍一・矢野慎一編著『「歴史総合」の学び方～神奈川の実践から～』えにし書房
2. 大平雅巳（2008年）『カラー版 西洋陶磁入門』岩波書店（岩波新書）
3. 北岡正三郎（2011年）『物語 食の文化～美味しい話、味な知識～』中央公論新社（中公新書）
4. 桐生海正（2025年）「鎖国」の中の日本」成田龍一・矢野慎一編著『「歴史総合」の学び方～神奈川の実践から～』えにし書房
5. 越川芳雄（1999年）「磁器～海を渡った伊万里焼～」千葉県歴史教育者協議会世界史部会編『世界史の中の物』地歴社
6. 近藤和彦・深沢克己（1999年）「近世国家と世界経済」近藤和彦編『西洋世界の歴史』山川出版社
7. 玉木俊明（2012年）『近代ヨーロッパの形成～商人と国家の近代世界システム～』創元社
8. 玉木俊明（2015年）『ヨーロッパ覇権史』筑摩書房（ちくま新書）
9. 綿引弘（1989年）『手に取る世界史教材～入手と活用～』地歴社
10. 中学校教科書『新しい社会 歴史』東京書籍、2025年
11. 高等学校教科書『歴史総合』東京書籍、2022年 / 『世界史探究』東京書籍、2023年
12. 工芸ジャパン <https://kogeijapan.com> [2025年11月30日参照]
13. 伊万里陶磁器工業協同組合 <https://imari-toujiki.or.jp> [2025年11月30日参照]
14. 伊万里市 <https://www.city.imari.lg.jp> [2025年11月30日参照]

2025 年度
開智国際大学公開講座報告

講座名	チリモンを探せ ～海の小さな生き物～		
講 師	千葉 秀一	所 属	教育学部 准教授

<実施概要>

日時	実施概要
2025 年 8 月 09 日 (土) 2025 年 8 月 22 日 (金) 2025 年 9 月 13 日 (土) 13 : 00—14 : 30	チリモンとは、「チリメンモンスター」のことで、食べ物である「ちりめんじゃこ」にまぎれこんでいる小さな生き物のことです。 親子で小さなモンスターを探します。 虫眼鏡、双眼実体顕微鏡、パソコンにつないで画面に映し出せるデジタル顕微鏡、パソコンを用意して、本格的な観察・実験を行い、生物多様性について学びます。 作成した標本、使用した教材（ちりめんじゃこ）は持ち帰ることができます。

<講師報告>

1 はじめに～「チリメンモンスター」の由来～

「ちりめんじゃこ」「しらす」は、主に「イワシ類の仔稚魚」を漁獲して乾燥させた食品ですが、漁の際に交じってしまう目的の魚種以外の小さな生物に着目して、昔から各地でちりめんじゃこに交じっている小さな生物探しとして教育現場や科学館で実践されてきました。

その活動の素材に対して、「チリメンモンスター」という名前を思いついたのは、「きしわだ自然友の会」のメンバーです。当時とても人気のあるアニメキャラクターと名前が似ていることもあり、「チリモン」と略して親しまれるようになりました。チリモンがここまで有名になったのも、このネーミングのおかげでしょう。その後、このようなイベントが各地で行われるように、あちこちの学校や博物館、科学館などでイベントが行われるようになりました。

2 観察・実験の手立て

【教材】観察用ちりめんじゃこ

「株式会社カネ上」（和歌山県有田郡湯浅町田 336 番地）より購入

※漁獲目的であるイワシ類の仔稚魚を大きな網で漁獲した際に、目的物以外の稚魚、エビ・カ

ニ類の幼生などが混獲される。食料品として流通している製品「ちりめんじゃこ」は、これらの混獲物を取り除いて商品化している。それでも一部の小さな生物が混じっている場合もある。「ちりめんじゃこ」「しらす」の製造販売会社である「株式会社カネ上」は、きしわだ自然博物館からの混獲物除去前のものを分けてくれないかという問い合わせに応じて「チリモン」として販売を始めたという経緯がある。

※「チリモン」には様々な生物が混入しており、中にはアレルギーの原因となるものが混じっていたり、また、食品としての衛生的な仕上げを施していなかったりするため、絶対に食べてはいけない。

【観察・実験準備物】

教材…チリモン

観察用具…虫メガネ、双眼実体顕微鏡、デジタル顕微鏡、パソコン、ピンセット、
選別用バット、発見を容易にするための黒ケント紙

標本作成用具…ケント紙（白・黒）木工用ボンド

参考資料…チリモン図鑑パンフレット（公益社団法人 大阪自然環境保全協会作成）

【観察・実験方法】

- ・教材のチリモンをバットに入れ、黒ケント紙の上に一塊りずつ取り、肉眼で観察しながら、種類の違うものをピンセットで選別して種類ごとに選別する。
- ・選別したものを、虫メガネや双眼実体顕微鏡、パソコン画面につないだデジタル顕微鏡で観察して、パンフレットや図鑑を見ながら生物の名前を同定する。
- ・パソコンに画像を取り込み、名前を付けて持参したメモリー等に保存する。
- ・ケント紙に木工用ボンドで種類ごとに貼り付けて標本にする。

2 講座実施概要

- ・3回の講座ともに、会場の理科室の6テーブルは満席であった。
- ・親子教室と銘打ったので、父母、祖父母が付き添って幼児から小学生までの参加があった。
- ・初めに観察・実験の説明を行った。「チリモン」の由来や、教材を手に入れる方法、市販品の違い、食べてはいけないことを説明した。
- ・観察・実験を開始すると、参加した保護者・幼児・児童が夢中になって小さな生物を探し、種類を見分けるため教具を使って細部を観察した。自力では同定できないグループには探し方を助言したり、一緒に同定作業を行った。
- ・最後に、海洋生物の多様性について資料を配り、環境保護、生態系保護の観点からも生物の多様性が必要であることを説明して終了した。

3 観察・実験の成果

- ・教材に交じっている生物を、どの参加グループも10種類程度探すことができた。
- ・専門的な観察機材も準備したので、器具の使い方にも興味関心をもち、虫メガネなどでは味

わえない驚きを感じた参加者が多かった。

- ・夏休み中に2回実施し、教材も持ち帰ることができるようにしたため、夏休みの宿題となっている「自由研究」として帰宅後もやってみるといった参加者が多かった。時期的にもよかったと考えられる。

【参考資料】

- ・海のマクロ生物図鑑—ちりめんモンスターの中に広がる世界—
(写真・文と編集制作) 西田 百代 (大阪自然環境保全協会)
(監修) 井田 齊 (北里大学海洋生命科学部 名誉教授)
(発行所) 株式会社仮説社 2023年11月10日 初版3刷
- ・「チリモン図鑑」ネイチャーおおさか (交易社団法人大阪環境保全協会)
<https://www.chirimon.jp/> 2025.12.20. 最終閲覧
- ・「チリメンモンスターを探せ」株式会社 カネ上
<https://www.kanejo.com/tirimon/tirimon.html> 2025.12.20. 最終閲覧
- ・「きしわだ自然資料館 チリメンモンスター実習について」きしわだ自然資料館
<https://www.city.kishiwada.lg.jp/site/shizenshi/chirimonjissyunitsuite.html>
2025.12.20. 最終閲覧

2025 年度
開智国際大学公開講座報告

講座名	ミニテニススキルアップセミナー（上級・初級）		
講 師	高橋 早苗	所 属	教育学部 准教授

<実施概要>

日時	実施概要
<上級> 2025年9月23日（火） 2025年9月30日（火） 10：40－12：10 <初級> 2025年10月07日（火） 2025年10月14日（火） 10：40－12：10	ミニテニスはバドミントンコートを使用し、ダブルスでゲームを楽しむスポーツです。大きめの柔らかいボールと短いラケットを使い、ラリーが続きやすいため、小学生から中高年まで幅広い年齢層に親しまれています。

<講師報告>

【上級コース】

2025年9月23日（火）：参加者 11名
 2025年9月30日（火）：参加者 12名

【初級コース】

2025年10月07日（火）：参加者 2名
 2025年10月14日（火）：参加者 2名

【実施内容】

上級コースでは、習得した技能の精度を上げる練習と試合に活かすゲームの組み立て方を講習しました。受講後は体の使い方や動きが良くなり、成果があったと感じております。

初級コースは、基本技能練習、サービスの仕方について講習後、ゲームを楽しみました。

初級参加者は2名と少人数でしたが、カットやスライスも上手にこなしていらっしゃいました。上級に参加した受講者にお手伝いをお願いし、ゲームまで予定通り進めることができました。



2025 年度
開智国際大学公開講座報告

講座名	女性のためのボクシング運動		
講 師	小山 貴	所 属	名誉教授

<実施概要>

日時	実施概要
2025 年 10 月 08 日 (水) 10 : 40 - 12 : 10	互いの打ち合いでなく、一人でのシャドウボクシング、二人組の「ミット打ち」や指導者相手の打ち込みなどを体験していただきます。本物のグローブをはめて行います。

<講師報告>

当初の予定通り行なったが、本学が短大当時から BOXING 講座を受講していた BOXING 運動が得意な 4 人だけの参加であった。短大当時は数週間開催して毎回 30 人近くが活発に活動していたが、最近世の中の風潮が変化したためか、以前強かった人 4 人だけの参加であった。

以前は体育館二階にパンチング・バッグ、パンチングボールも設置してあって全員がさまざまな練習ができたが、今は体育館の片隅での運動なので興味が薄らいだためと考えられる。

各地のスポーツジムでは、最近とくに女性に重点をおいて会員募集をしている。来年度以降、同じテーマで計画しても今回と同じ結果が予想されるので、ボクシング運動は実施しないほうが適切と考えられる。

2025 年度
開智国際大学公開講座報告

講座名	日常生活に潜む比喩表現		
講 師	靱山 泰斗	所 属	国際教養学部 講師

<実施概要>

日時	実施概要
2025 年 10 月 17 日 (金) 15 : 00 - 16 : 30	私たちは普段から、「時は金なり」「パソコンのマウス」のように比喩を多く使用しています。本講座では、日常生活で何気なく使っているさまざまな比喩表現について、実例に基づいて言語学の観点から考察します。

<講師報告>

1. 講座の概要

本講座は、認知言語学の観点から、比喩表現であるメタファー（隠喩：metaphor）・メトニミー（換喩：metonymy）・シネクドキー（提喩：synecdoche）について、日常生活で目にする実例を取り上げ、それぞれの概念の説明と考察を行った。受講者は4名であった。

2. 講座の内容

まず、比喩表現の分類を簡単に説明した。次に、メタファーを取り上げた。「目玉焼き」や「パソコンのマウス」など10程度の実例を取り上げて、メタファーはよくわかっているもの・知覚しやすいもの・経験上多く触れているもので、対象の意味を表すこと、類似性(similarity)に基づくことを説明した。その後、形状の類似性と機能・性質の類似性についての説明を行った。

次に、メトニミーについて、「黒板を消す」「机を片付ける」などの例を用いて隣接性(contiguity)・関連性に基づく比喩であることを示した。さらに、「背中を流す」等の空間的な隣接性と「頭を抱える」等の時間の隣接性についても取り上げた。メトニミーの基盤の一つである「全体-部分」関係について、「鍋を食べる」等の例を用いて説明をした。関連性に基づくメトニミーについても、10程度の例を挙げ説明をした。

最後に、シネクドキーを取り上げた。「花見」や「お茶を飲む」等の表現を用いて、シネクドキーはカテゴリーの上下関係(包含関係)に基づく比喩であることを示した。また、「実力がある」

等の例で「程度性」に関わるシネクドキーを、「百計をめぐらす」等の例で数に関わるシネクドキーを、「バンドエイド」等の例で商品名のシネクドキーを取り上げた。

3. おわりに

受講者の学習状況が想定できなかつたため、複数のレベルの実例を用意して講座に臨んだ。講座の開始時に受講者のレベルに関するアンケートを取り、入門レベルの授業を行うこととした。受講者からも積極的に例を出すよう心掛けたため、比較的相互にやり取りのある講座になったと考える。受講者からさまざまな意見を聞くことができ、講師としても大変有意義な講座であった。

参考文献

佐藤信夫（1978）『レトリック感覚』、講談社 [(1992) 講談社学術文庫]

瀬戸賢一（1997）『認識のレトリック』、海鳴社

瀬戸賢一（2002）『日本語のレトリック 文章表現の技法』、岩波ジュニア新書

瀬戸賢一・宮畑一範・小倉雅明（2022）『[例解] 現代レトリック事典』、大修館書店

鍋島弘治朗（2011）『日本語のメタファー』、くろしお出版

森雄一（2012）『学びのエクササイズ レトリック』、ひつじ書房

2025 年度
開智国際大学公開講座報告

講座名	アンデルセンと未明 —— 『人魚姫』と『赤い蠟燭と人魚』		
講 師	佐々木 さよ	所 属	教育学部 教授

<実施概要>

日時	実施概要
2025 年 10 月 27 日 (月) 13 : 00 - 14 : 30	子どもの頃、アンデルセンの『人魚姫』や小川未明の『赤い蠟燭と人魚』に涙した方は多いことでしょう。2 作が描く〈異類の者＝人魚〉を通して人間社会や文化を考えます。

<講師報告>

以下の内容で、受講者に読みや意見求めつつ実施した。

【1】

- 1、ハンス・クリスチャン・アンデルセン（1805 年 4 月～1875 年 8 月）経歴概略
- 2、森鷗外訳「即興詩人」（1892（明治 25）年～1901（明治 34）年）、約 10 年かけてドイツ語版から重訳、初版（1902 年 春陽堂）より「譯者識す」の（二）と（四）を紹介

【2】

- 1、小川未明（1882（明治 15）年～1961（昭和 36）年）の経歴から、特に下記を紹介
 - ・作家としての出発期：・無政府主義者の大杉栄などを通しての社会主義思想への接近
 - ・ロシア革命後のマルクス主義との落差の痛感
 - ・鈴木三重吉による雑誌「赤い鳥」を創刊（1918 年）を機に児童文学作家へ
- 2、「赤い蠟燭と人魚」への戦後における批判を中心として、以下の内容を紹介
 - ・古田足日「近代童話の崩壊」（1954 年）
「さよなら未明—日本近代童話の本質—」（『現代児童文学論—近代童話批判—』1959 所収） → 資料配布
 - ・菅忠道『日本の児童文学』（1956）
 - ・高橋美代子『小川未明童話論』（1956）
 - ・鳥越信『新選日本児童文学 I 大正編』（1959）

- ・上笙一郎『未明童話の本質』(1966)
- 3、大正期童心主義、大正期後半の児童観、児童文学観について
 - ・概説
 - ・古田足日、鳥越信ら児童文学者、児童文学研究者の疑問
 - ・芥川龍之介「蜘蛛の糸」(1918「赤い鳥」)「杜子春」(1920「赤い鳥」)等は童心か。
 - ・小川未明(1882～1961)が考える「童話」
- 4、児童文学の戦後——児童文学作家の権威とされた小川未明、『赤い蠟燭と人魚』への批判
 - ・戦後の新しい児童文学をめざす児童文学作家、児童文学者にとって、小川未明『赤い蠟燭と人魚』を否定することがなぜ必要だったのか
 - ・批判者たちが立脚した児童文学観
- 5、『赤い蠟燭と人魚』批判の視点例
 - ・結末の不条理
 - ・母人魚の責任放棄
 - ・「神さま」
 - ・老夫婦の造形の不安定さ、変心の不自然さ
- 6、未明批判の再考と新しい読みの模索へ
 - ・老夫婦の造形と変心を中心に、批判内容を再考
 - ・未明の社会批判的側面を再考——社会構造や経済構造に対する未明の憤り
 - ・『赤い蠟燭と人魚』で描かれる社会構造や経済構造
 - ・弱者、貧者、虐げられた者の存在
 - ・母人魚の動機を再考
 - ・「北の国」からの脱出＝苦境からの脱出という願い
 - ・人間世界への憧れ、希望としての人間世界
 - ・『赤い蠟燭と人魚』で描かれる「救い」と現世的欲望
 - ・〈人魚〉がもたらす現世利益的な「救い」
 - ・老夫婦の家計と参拝客の増加による町の発展につながる利益
 - ・「神さま」の「救い、ご利益」に対する「感謝」
 - ・迷信を信じる老夫婦の弱さ、金銭欲という現世的欲望
 - ・「北の海」(＝苦境)からの脱出を願う母人魚
 - ・子の幸福を願って人間に「救い」を求める母人魚の行為は現世利益的か
 - ・結末をどう読むか
 - ・未明批判での読み
 - ・欲深になった老夫婦だけでなく町全体までが滅んでしまう不条理
 - ・子が受けた理不尽への悲憤は復讐を思わせ、復讐を許容する母性観
 - ・外部世界の矛盾した姿も解決法の提示がなく、内面世界にだけ留まる。
 - ・再考
 - ・不条理かどうか。
 - ・老夫婦を思う娘人魚の心の作中における着地点はどうなったか。

- ・〈子ども向き〉といえる作品なのかどうか。
- ・〈子ども向き〉ということを離れた〈読み〉の可能性
- ・芥川龍之介「桃太郎」は〈子供向き〉といえるか。

【3】

- 1、ドイツ・ロマン主義の「水の女」文学とアンデルセン「人魚姫」
- 2、伝統的な水の精がもつ3つの要素と『人魚姫』3つの要素
 - ・脇明子「男装の人魚姫と八百比丘尼—西洋と日本の人魚たち」(『少女たちの19世紀 人魚姫からアリスまで』(2013 岩波書店)の紹介
 - ・伝統的「水の精」がもつ3要素
- 3、ドイツ・ロマン主義の「水の女」文学
 - ・人間の視点——地上における人間と人魚(=女性)との邂逅、視点は地上
 - ・人魚(=女性)は人間(=男性)を水に引き込む、コミュニケーション不可能な他者
- 4、アンデルセンが描く〈人魚〉
 - ・『アウネーテと人魚』(1834)
 - ・人間の女性と人魚の男性の悲恋
 - ・ドイツ・ロマン主義の「水の女」文学では人魚が女性であることを前提
- 5、『人魚姫』の結末部分 →原作に忠実な訳を資料として配布
 - ・翻訳で流布する「泡になって消える」という結末
 - ・原作の結末
 - ・泡になって消えたかに思われた人魚姫が実際には空気の精に
 - ・300年の間にできるだけよいことをすると人間と同じように永遠の魂を得る
 - ・願っていたものを得て、穏やかで幸福な気持ちで王子たちを見つめる人魚姫

【4】

- 1、『人魚姫』と『赤い蠟燭と人魚』の比較
 - ・自分の意志による上昇志向、行動する主体としての〈人魚〉(=女性)
 - ・社会的に抑圧され、他者(『人魚姫』では男性、『赤い蠟燭と人魚』では人間)に依存
 - ・『人魚姫』の語りの視点は常に人魚、『赤い蠟燭と人魚』は人魚に限定されない
 - ・『赤い蠟燭と人魚』は「水の女」を題材とするロマン主義文学の系譜に位置づけが困難
 - ・『赤い蠟燭と人魚』になく『人魚姫』にある、人間とは別世界の絶対的な厳しさ、優しさ

【5】

- 1、〈人間〉にとって〈人魚〉とは何だったのか、〈人魚〉にとって〈人間〉とは何だったのか。
 - ・弱者、貧者、虐げられた者が存在する社会構造
 - ・〈人間〉と〈人魚〉の間にある溝は埋められないのか。
- 2、コミュニケーションの可能性と不可能
 - ・〈声〉を失うことと〈声〉が届くこと

2025 年度
開智国際大学公開講座報告

講座名	AI はアイアンマンのスーツか？ ～人間の可能性を拡張する生成 AI～		
講 師	符 儒 徳	所 属	国際教養学部 教授

<実施概要>

日時	実施概要
2025 年 11 月 28 日 (金) 13 : 00 - 14 : 30	AI は『アイアンマン』のスーツのように、人間を強化できるのか？ 仕事・創作・生活支援における生成 AI の活用事例を交え、誰もが安心の使い方から AI 共生社会、そして未来の技術革新まで分かりやすく解説します。

<講師報告>

一. 講座内容

本講座では、生成 AI を単なる「脅威」ではなく「パートナー」と捉え、『アイアンマン』のスーツのように人間の知的能力を拡張する「外部知能」として、その可能性と具体的な活用の在り方を解説し、議論を展開しました。

議論は、近年急速に普及する生成 AI をどのように理解し、活用すべきかという問題意識から始めました。まず「AI とアイアンマンのスーツの比喻」では、スーツが人間の身体能力を高めるのと同様、AI が知的活動を支援・拡張するツールであるという共存・共生の視点を提示しました。

続いて「生成 AI の進化と基本概念」において、AI の発展を「ルールベース型」「機械学習型」「生成 AI」の三段階に整理し、特にディープラーニング（深層学習）と Transformer 技術の登場が今日の生成 AI を実現させた背景と基本原理をわかりやすく解説しました。

「人間の能力拡張とは何か」では、人間中心設計（Human-Centered AI）の考え方に立ち、AI による能力拡張を「補助」「強化」「代替」の三形態に分類し、AI を人間の弱点を補完する「補完的知能」、つまり「外部知能」として明確に位置づけました。

「生成 AI の活用事例」では、教育（個別学習支援）、医療（診断補助）、ビジネス（データ分析）、創作（文章・画像生成）など、各分野の具体的事例を通じて、生成 AI が状況に応じて人間を支援する「スーツ」として、実際にどのように機能するかを具象化しました。

一方で「限界と倫理課題」では、ハルシネーション（幻覚）やバイアス、著作権問題、ディープフェイクといった技術的リスクに加え、AI への過度な依存や思考停止の危険性、さらにAI 利用における責任の所在について議論を深めました。これらの課題を踏まえ、AI を適切に「使いこなす」ために不可欠なAI リテラシーと倫理観の重要性を改めて強調しました。

「未来展望」では、マルチモーダルAI やAI エージェントの進化、自律学習の技術トレンドを紹介し、人間とAI がそれぞれの強みを活かして役割分担し、パートナーとして共に進化する「協働社会」の具体的な姿を描くことを試みました。

最後に「まとめ」では、AI という「スーツ」を効果的かつ安心して「着こなす」ための心構えを再確認し、生成AI が拓く未来の可能性は、最終的にはこの技術をどう活用し、どう向き合うか、人間自身の選択に委ねられていると結論づけ、議論を締めくくりました。

二. 講座次第

1. 導入と自己紹介

- ・講演者の自己紹介
- ・テーマの背景

2. AI とアイアンマンのスーツの比喻 — 拡張の象徴

- ・AI は人を超える存在か、それとも人を強くする存在か？
- ・スーツとAI の機能比較（※図表1参照）
- ・アイアンマンの比喻：スーツ=拡張の象徴
- ・スーツは身体能力を、AI は知的能力を拡張する（※図表2参照）
- ・あなたにとってAI は何か？（アンケート調査）

3. 生成AI の進化と基本概念 — AI の三つの時代

- ・AI 時代の新語・流行語：「チャッピー」「ジピル」
- ・AI の三つの時代とその特徴①
- ・進化の流れ：ルールベース→機械学習→生成AI
- ・AI の三つの時代とその特徴②（※図表3参照）
- ・AI とは何か（※図表4参照）
- ・生成AI とは何か（※図表5参照）
- ・ディープラーニング（深層学習）の登場：登場遅いがインパクト強（※図表6参照）
- ・マルチモーダル化の進展
- ・生成AI の仕組み（※図表7参照）
- ・AI・ディープラーニング・生成AI の定義まとめ
- ・なぜ今、AI が注目されるのか—技術と社会の交差点から
- ・よくある誤解（仕組みを正しく理解する）
- ・生成AI の技術構造図（※図表8参照）
- ・教育応用の例

4. 人間の能力拡張とは何か — 概念・背景・設計思想

- ・人間の能力拡張とは（※図表9参照）

- ・補助・強化・代替の3分類
 - ・人間中心設計 (Human-Centered AI)
 - ・ツールかパートナーか
 - ・「使いこなす力」が鍵
 - ・AI と人間の役割分担：生成 vs 判断
 - ・補完的知能としてのAI
5. 生成AI の活用事例 — スーツのように機能する場面
- ・活用の広がり：着る場面の多様化（※図表10参照）
 - ・スーツとAI の活用場面比較
 - ・生成AI の活用事例-教育
 - ・生成AI の活用事例-研究
 - ・生成AI の活用事例-医療
 - ・生成AI の活用事例-創作
 - ・生成AI の活用事例-ビジネス
 - ・生成AI の活用事例-業務支援
 - ・生成AI の活用事例-日常生活
 - ・AI の利用目的は「プライベートな内容」が最多：半数以上
6. 限界と倫理課題 — 依存・思考停止・責任の所在
- ・生成AI のリスク-ハルシネーション (hallucination)
 - ・スーツとAI のリスク比較（※図表11参照）
 - ・AI が生み出す「新たな不安」：若年層や男性の割合が高い傾向
 - ・生成AI への不安トップは「フェイクコンテンツが出回りそう」
 - ・AI は家族や友人を超え「気軽に相談できる相手」へ：AI への依存
 - ・技術的課題：生成AI の限界とリスク
 - ・事例：生成AI によるフェイク情報の影響
 - ・AI の2つの対比的立場①：知識ベース vs 予測ベース
 - ・AI の2つの対比的立場②：記号主義 vs コネクションイズム
 - ・対比的なAI アプローチと関連問題（※図表12参照）
 - ・各問題の位置づけ
 - ・倫理的注意点-生成AI の信頼性とリテラシー
 - ・事例：AI による開発現場の問題
7. 未来展望 — 人とAI の協働社会へ
- ・生成AI の研究トレンド
 - ・マルチモーダルAI の進化
 - ・エージェント化と自律学習
 - ・マルチモーダルAI とは何か
 - ・AI エージェントとは何か
 - ・事例：au のチャットサポートに導入された「人間学習AI」

- ・未来展望：AI との協働
- ・人間×AI チーム：拡張から共進化へ
- ・AI リテラシー育成の重要性：自分に合った「スーツ」を選び、着こなす力を育てる

8. まとめ — AI をスーツとしてどう着こなすか

- ・生成 AI の本質と可能性
- ・AI リテラシーと倫理観の確立が未来の創造に向けた出発点となる
- ・生成 AI の未来は人間の選択に委ねられる

三. 図表

図表 1. スーツと AI の機能比較

アイアンマンのスーツの機能	AI の機能	スーツと AI の共通点
人間の力を “拡張” する装置	知的能力を “拡張” する装置	人間の限界を補う「外部知能」

図表 2. 詳細比較

アイアンマンのスーツ	AI
身体能力を強化する外部装置	知的能力を強化する外部ツール
着ることで超人的な力を得る	使うことで創造力・分析力が拡張される
トニー・スタークの意味が中心	人間の判断が中心 (AI は補助)

図表 3. AI の三つの時代とその特徴

時代	主な特徴	強み	限界
ルールベース (Rule-Based)	人間が定義した「if～then」ルールに従って動作	説明可能性が高い, 専門分野に強い	柔軟性が低い, 未知の状況に対応できない
機械学習 (Machine Learning)	データからパターンを学習し, 予測や分類を行う	柔軟性が高い, 未知のケースにも対応	ブラックボックス化しやすい, 大量のデータが必要
生成 AI (Generative AI)	学習したパターンから新しいコンテンツ (文章・画像など) を生成	創造性が高い, 自然言語や画像生成が可能	誤情報の生成リスク, 倫理的課題が多い

図表 4. AI・機械学習・深層学習

項目	内容
AI(人工知能)	人間の知的活動を模倣する技術全般
機械学習	データからパターンを学習する AI の一分野
深層学習	ニューラルネットワークによる高度な学習手法

図表 5. 生成 AI とその特徴

項目	内容
生成 AI	テキスト・画像・音声などを生成する AI
代表例	ChatGPT (文章), DALL・E (画像), MusicLM (音楽)
特徴	入力に対して創造的な出力を返す能力

図表 6. ディープラーニングの特徴

特徴	説明
特徴量の自動抽出	人が設計せずとも、重要な特徴をデータから抽出できる
多層構造による深い学習	多層のネットワークで複雑なパターンを捉える
非線形・抽象的な関係の学習	人間が気づかない関係性や意味を捉える
応用範囲の広さ	画像・音声・言語など多様な分野に活用可能
大量のデータと計算資源	高精度な学習には膨大なデータと GPU が必要

図表 7. 生成 AI の仕組み

項目	内容
学習データ	モデルが過去に学習した大量の文章・画像・音声など (例: 書籍, Web 記事, 画像データベースなど)
パラメータ	学習データから抽出された“知識”を数値化したもので、モデルの“重み”や“判断基準”を構成する
生成 AI	入力された指示 (AI プロンプト) をもとに、「学習データ」から得た「知識 (パラメータ)」を活用し、新しいコンテンツ (文章・画像・音声など) を生成する

図表 8. 生成 AI の技術構造図（構成要素の連携）

※生成 AI は以下の 4 つの層で構成され、それぞれが連携して高度な出力を可能にしている。

構成層	用語	簡略な説明
構造	Transformer	文脈を理解し、情報を効率的に処理する生成 AI の「骨格」
学習	自己教師あり学習	大量のデータから自らパターンを見つけて学習し、能力を磨く仕組み
知識	LLM	学習した情報を蓄積し、自然な文章生成や回答作成に活用する「知識基盤」
表現	マルチモーダル	文章・画像・音声など複数の形式で情報を理解・生成する「出力機能」

図表 9. 拡張（スーツ vs AI）

アイアンマンのスーツの拡張	AI の拡張
飛行・防衛・パワー強化	言語・創造性・分析力の強化
危険な環境でも活動可能	複雑な課題でも思考支援可能
スーツなしでは不可能な行動	AI なしでは困難な作業の補助

図表 10. AI の活用：着る場面の多様化

分野	スーツの比喻	主な活用内容
教育	制服	個別指導・言語学習・教材生成
医療	白衣	症状分析・患者対応・医療文書作成
ビジネス	スーツ	データ分析・プレゼン作成・顧客対応
創作	衣装	文章生成・画像・音楽制作・アイデア展開

図表 11. スーツと AI のリスク比較

スーツのリスク	AI のリスク
故障・暴走・依存	幻覚・バイアス・過信・依存
操作ミスによる事故	誤用による情報漏洩・誤判断
スーツに頼りすぎる危険	AI に判断を委ねすぎる危険

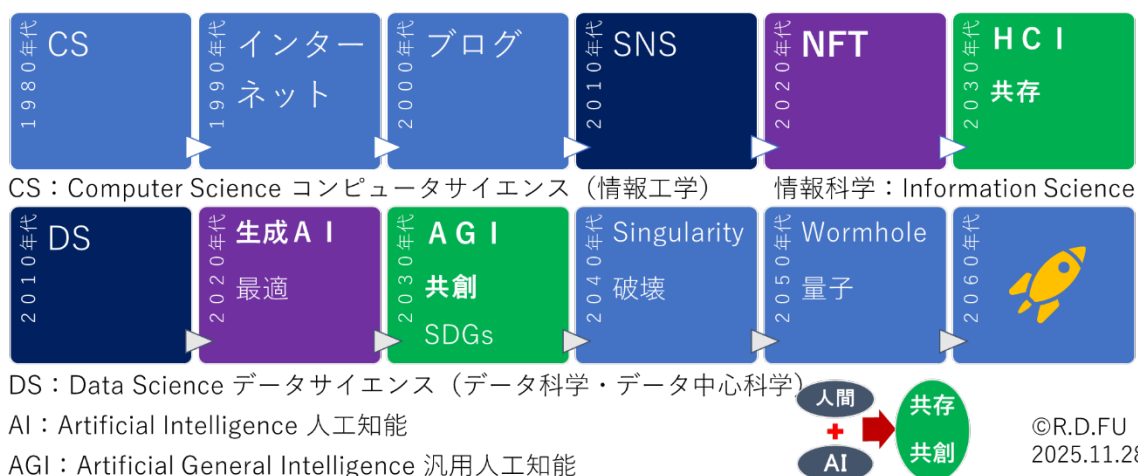
図表 1 2. 対比的な AI アプローチと関連問題

アプローチ	概要	関連問題
知識ベース (記号主義)	明示的なルールや論理記号を使って知識を表現・操作	フレーム問題: 状況変化に対応するために何を考慮すべきかを判断するのが困難
		記号接地問題: 記号が現実世界の意味と結びつかない
予測ベース (コネクショニズム寄り)	ニューラルネットワークなどの統計的手法で経験からパターンを学習	モラベックのパラドックス: 高度な論理よりも感覚運動の方が難しい
		意味理解の限界やハルシネーションなど新たな課題が生じる

四. 配付資料

本講座「AI はアイアンマンのスーツか? ~人間の可能性を拡張する生成 AI~」のタイトル, 目次, 見出し, 専門用語の定義および事例など (全 28 頁・2 枚組)。

五. 未来予測



六. 参考文献

- 符儒徳: 2017/11/28, 「2045 年問題と人工知能 (AI)」『2017 年度開智国際大学「公開講座」報告』.
- 符儒徳: 2018/11/17, 「人工知能 (AI) 時代こそ人間の知恵が大切~叡智融合について~」『2018 年度開智国際大学「公開講座」報告』.
- 符儒徳: 2023/11/28, 「AI 時代の学びと仕事~人工知能がもたらす未来の可能性」『2023 年度開智国際大学「公開講座」報告』.
- 符儒徳: 2024/11/29, 「AI との上手な付き合い方~AI 時代のディープフェイクとハルシネーション」

ン対策～」『2024 年度開智国際大学「公開講座」報告』.

株式会社アイデミー, 山口達輝, 松田洋之: 2024, 『図解即戦力 機械学習&ディープラーニングのしくみと技術がこれ 1 冊でしっかりわかる教科書』技術評論社.

スマホライフ PLUS: 2025/06/12, 「AI は悩み相談の相手? 「プライベートの相談相手」として利用する人が半数以上」(「株式会社 NEXER/ポールトゥウイン」調べ).

スマホライフ PLUS: 2025/08/18, 「生成 AI に不安を感じる人は 3 割! 10 代の半数以上が懸念する “最大のリスク” とは?」(「モバイル社会研究所」調べ).

スマホライフ PLUS: 2025/08/19, 「AI がないと不安」43%! 対話型生成 AI が生活の “心の支え” に急成長」(「Awarefy」調べ).

ログミーBusiness : 2025/11/26, 「AI で効率化のはずが “1 人デスマーチ状態” に 開発現場にはびこる “サボる AI 問題”」.

2025 年度
開智国際大学公開講座報告

講座名	東南アジアのヒンドゥー教と中国宗教		
講 師	古賀 万由里	所 属	国際教養学部 教授

<実施概要>

日時	実施概要
2025 年 12 月 04 日 (木) 10 : 40 - 12 : 10	マレーシアとシンガポールには、イギリスの植民地時代に移住したインド人と中国人が数多く住んでいます。彼らが実践する祭礼から、両宗教の特徴と相違点、そして両者が混合していく様子を見ていきます。

<講師報告>

マレーシアとシンガポールでは、英領時代に移住したインド人と中国人の子孫らが、それぞれ、ヒンドゥー寺院や道教寺院で祭礼を行っているが、中にはヒンドゥー寺院の祭礼に多くの華人が参加している場合がある。このような祭礼を4つ取り上げ、ヒンドゥー文化と華人文化が融合している現象を映像を用いて紹介し、なぜそうした現象が生じているのかを考察した。

- 事例1 マレーシア・ペラ州パンコール島のカーリアンマン寺院の大祭
- 事例2 マレーシア・マラッカ州のムットゥマーリアンマン寺院の大祭
- 事例3 マレーシア・マラッカ州のカーリアンマン・ムニーシュワラン寺院の大祭
- 事例4 シンガポールのタイプーサム祭

インド人は南インドのタミル・ナードゥ州出身者の子孫であるため、タミル地方の神々を祀っている。また華人は華南地方出身者の子孫であり、主に福建省で信仰されている神々を祀っている。

インド人と華人との間に見られる共通の儀礼行為としては、憑依・託宣、自傷行為、火渡りがあげられる。しかし、スタイルには相違が見られる。また、同じ儀礼行為や祭礼に対して、インド人と華人とでは解釈に相違が見られた。

次にインドの神々と中国の神々について、主なものを紹介した。それぞれ、ルーツは異なるもの

であっても、化身の概念によって、同一視されている場合もある。

ヒンドゥー教の祭礼に華人が参加するようになった背景には、以下の通りである。①イギリス植民地時代に移住した際、同一または近隣のプランテーションで働くことがあった、②結婚、養子縁組により、インド人と中国人の間に混血が見られる、③中国人は他宗教でもご利益のある神を信仰する傾向がある、④儀礼行為が類似していることから、参加しやすい、⑤華人は信者および経済的サポーターとして受け入れられている。

2025 年度
開智国際大学公開講座報告

講座名	不老不死を目指して～道教とは何か？～		
講 師	三枝 秀子	所 属	教育学部 教授

<実施概要>

日時	実施概要
2025年12月09日(火) 14:40-16:10	<p>人はいつの時代から不老不死を求めてきたのだろうか。その問いを考える手がかりを、中国の伝統宗教の一つである道教に求めた。</p> <p>道教は、日本において「道教」という名称のまま受容されたわけではなく、さまざまな形に姿を変えて伝わり、我々の日常生活の随所に溶け込んでいる。</p> <p>道教とは本来いかなる思想でありどのようにして始まった宗教なのか。その姿を講座にて探った。</p>

<講師報告>

1 講座の内容

中国三大宗教の一つである道教の発祥と発展について、中国の伝統宗教である儒教との比較を通して解説した。さらに、文学作品に見られる道教的要素及び、我々の日常生活の中に見られる道教の姿を探った。講座は、以下のように三部構成で進めた。

- 1、中国の宗教
 - (1) 現在の中国の宗教
 - (2) 中国を起源とする宗教
- 2、中国に伝来した宗教…仏教
- 3、道教について
 - (1) はじまり
 - (2) 発展の歴史(晋)
 - (3) 国家の保護を受ける(唐)
 - (4) 道教とは何をするのか?
 - (5) 文学作品から道教的要素を探そう!
 - (6) 日本への影響

2 当日の参加者について

参加者は8名であった。

講座終了後、僅かな時間ではあったが、質問の時間を設けた。参加者の中に仏教に造詣が深い方がおられ、参考となるお話を伺う機会を得ることができた。

3 課題

講座担当者は、魏晋南北朝から唐代にかけての詩を研究対象としている。本講座は、文学研究の一環として進めている道教研究の成果を報告するものである。今後も、文学研究の枠にとどまることなく、より広い視野から研究に取り組んでいきたい。

4 謝意

本講座で参照した資料の一部は、大学からの個人課題研究費によって調達した。

5 参考文献

『道教の本 不老不死をめざす仙道呪術の世界』学研 1992

『中国思想を考える』金谷治 中公新書 1993

『中国人の宗教・道教とは何か』松本浩一 PHP 新書 2006

『概説 中国思想史』湯浅邦弘 ミネルヴァ書房 2011

『中国の信仰世界と道教』二階堂善弘 吉川弘文館 2024

2025 年度
開智国際大学公開講座報告

講座名	キャリア・デザインに活かす小倉百人一首の知恵		
講 師	森谷 一経	所 属	国際教養学部 教授

<実施概要>

日時	実施概要
2025 年 12 月 25 日 (木) 14 : 40 - 16 : 10	古典文学には、キャリア・デザインに活かせる知恵が詰まっています。本講座では、百人一首の名歌を通じて人生の選択や努力の意義を考察し、現代の働き方や生き方に活かせるヒントを探ります。

<講師報告>

1. 講座の趣旨： 古典文学に内包される先人の知恵を、現代のキャリア形成理論の視点から再解釈する。百人一首の名歌を通じて、不確実な時代における人生の選択、努力の意義、自己管理のあり方を考察し、受講者が自身の働き方や生き方を見つめ直すヒントを提供することを目的とする。参加者：5名

2. 講義内容の詳細

(1) 変化を受け入れ、糧にする (レジリエンス)

クランボルツの「プランド・ハプスタンス (計画的偶発性) 理論」を軸に、予期せぬ変化をキャリアの機会に変える姿勢を解説した。

取り上げた歌： 蝉丸「これやこの 行くも帰るも 分かれては 知るも知らぬも 逢坂の関」

解説の要点： 逢坂の関をキャリアにおける「結節点 (ネットワークのハブ)」と捉え、出会いと別れ、環境の変化をいかに自己の成長の糧とするか、縁の重要性とレジリエンスについて考察した。

(2) 情熱をコントロールする (セルフマネジメント)

キャリア理論における「Will/Can/Must」のフレームワークを用い、自己の内面的な意欲と社会的な見られ方の調和を論じた。

取り上げた歌： 平兼盛「忍ぶれど 色に出でにけり わが恋は ものや思ふと 人の問ふまで」

解説の要点：「内に秘めた情熱」が自然と表出するプロセスを、専門性の深化や自己ブランディングの確立に擬え、周囲の評価を得ながらキャリアを築くプロセスを説いた。

(3) スキルの賞味期限と継続的学習（リスクリング）

過去の成功体験の固執が招くリスクと、生涯学習の必要性について言及した。

取り上げた歌： 小野小町「花の色は うつりにけりな いたづらに わが身世にふる なかめせし まに」

解説の要点：「花の色」を過去のスキルや実績に、「ながめ（長雨／眺め）」を変化に対する停滞に置き換え、時代の変化を傍観せず、自らをアップデートし続ける重要性を強調した。

(4) 逆境を乗り越える精神（マインドセット）

困難に直面した際の視点の切り替え（リフレーミング）の技法について解説した。

取り上げた歌： 参議篁「わたの原 八十島かけて 漕ぎ出でぬと 人には告げよ 海人の釣舟」

解説の要点：流罪という絶望的な状況下での力強い宣言を、逆境を「新たな挑戦の始まり」と再定義するポジティブなマインドセットの好例として紹介した。

3. 工夫

自分事化を促すワークショップ：「今の自分を百人一首に例えると？」という問いを投げかけ、古典の教訓を抽象的な知識に留めず、受講者個人のキャリア課題に接続させる対話型の演出を取り入れた。

概念の現代語訳：古典的な語彙を「ビジネス用語（プロジェクト、目標、理想の職場など）」に置き換えて解説することで、幅広い年齢層、特に現役・シニア世代の受講者の理解と興味を喚起した。

4. 総括

本講座を通じ、古典文学は単なる鑑賞の対象ではなく、現代を生きる私たちの「キャリアの羅針盤」になり得ることを示した。受講者からは、時を超えて変わらない人間の本質的な悩みに対し、古典という客観的な鏡を通すことで、自身のキャリアを冷静に見つめ直すことができたとの反響を得た。今後も、人文知を実社会に還元する試みを継続していきたい。 以上

テーマ講座 「戦後80年」の今、日本の歩みを見直す～近世、近代、現代～

1 戦後学校教育の原点「戦後教育改革」を検証する ～学校教育はどこへ向かうか?～ ●講師 大木 匡尚(教育学部准教授)

- 内容 六・三制、男女共学化、社会科など新教科の開始…、学校教育の戦後80年の歩みは、まさに「戦後教育改革」から始まりました。この講座では、過去の新聞や資料を活用して、戦後教育改革を多面的・多角的に検証します。
- 日時 10/20(月) 13:00-14:30 ●受講料 1,000円(全1回)

2 小島信夫『抱擁家族』を読む ●講師 佐々木 さよ(教育学部教授)

- 内容 戦後20年となる1965年発表の小説です。中流家庭の三輪俊介の家に家政婦や米兵が来て…外部の闖入に主の俊介はどう対応し三輪家はどこへ向かうのか。「アメリカ」「家族」をキーに読みます。
- 日時 ①11/12(水) 13:00-14:30 ●受講料 2,000円(全2回)
②11/19(水) 13:00-14:30 ※1回のみ受講も可能です

3 古文書が語る柏の江戸時代—戸張村— ●講師 野本 禎司(教育学部准教授)

- 内容 柏市内に残された古文書を読み解きながら、江戸時代における戸張村の領主(旗本三橋氏)と村役人(名主)の関係を中心に解説します。古文書から明らかになる江戸時代のリアルを学んでみませんか。
- 日時 12/05(金) 10:40-12:10 ●受講料 1,000円(全1回)

4 「戦後80年」と日本の政治外交:講和問題(日独比較)の検討 ●講師 清水 聡(国際教養学部教授)

- 内容 戦後日本の政治外交について取り上げます。講座の狙いは講和問題(日独比較)ですが、その関連分野として、敗戦、日本国憲法制定過程、占領と経済・社会、東アジアの冷戦など、幅広い情報を扱います。
- 日時 12/05(金) 13:00-14:30 ●受講料 1,000円(全1回)

5 戦後80年、日韓条約60年からみた 韓国の歴史・政治・民主主義をどう見るか ●講師 坂井 俊樹(教育学部教授)

- 内容 日本人の認識が薄い植民地支配から解放された韓国の戦後史を、民主主義と歴史認識問題を中心に考え、その上で李在明政権下の韓国への向き合い方を考えます。
- 日時 ①12/09(火) 13:00-14:30 ●受講料 2,000円(全2回)
②12/16(火) 13:00-14:30

6 伊万里焼はなぜヨーロッパでよく売れたのか? ～世界の動きからみる近世の日本～ ●講師 山本 勝治(教育学部准教授)

- 内容 戦国時代の日本はポルトガル領でした。どういことでしょうか?「鎖国」中の江戸時代にヨーロッパで唯一交易していたオランダ。そもそも、なぜオランダのみ? 世界史の大きな動きの中で、近世の日本を捉えなおしてみます。
- 日時 12/11(木) 14:40-16:10 ●受講料 1,000円(全1回)

親子講座 夏休みの自由研究にも!楽しい理科の講座

7 チリモンを探せ ～海の小さな生き物～ ●講師 千葉 秀一(教育学部准教授)

- 内容 チリモンとは、「チリメンモンスター」のことで、食べ物である「ちりめんじゃこ」にまぎれこんでいる小さな生き物のことです。デジタル顕微鏡を使って親子でモンスターを探しましょう。
- 日時 ①08/09(土) 13:00-14:30 ●注意事項
②08/22(金) 13:00-14:30 ※各回とも先着6組まで(要保護者同伴/1組4名まで)
③09/13(土) 13:00-14:30 ※①②③回とも講座の内容は同じです。
※使用した教材(ちりめんじゃこ)は持ち帰り可能です。
※USBメモリーを持参すれば、デジタル顕微鏡に接続したPCから写真を保存して持ち帰れます。
※大人の方のみの参加も可能です
- 受講料 各回1,000円
※子ども1名につき保護者1名まで受講料無料



8 ミニテニススキルアップセミナー(上級・初級)※

●講師 高橋 早苗(教育学部准教授)

●内容 ミニテニスはバドミントンコートを使用し、ダブルスでゲームを楽しむスポーツです。大きめの柔らかいボールと短いラケットを使い、ラリーが続きやすいため、小学生から中高年まで幅広い年齢層に親しまれています。

●日時

<上級>09/23(火・祝)、09/30(火) 10:40-12:10
<初級>10/07(火)、10/14(火) 10:40-12:10

●受講料

<上級>2,000円(全2回)
<初級>2,000円(全2回)

●持ち物 トレーニングウェア、体育館シューズ、水分補給用飲み物、着替え等

9 女性のためのボクシング運動※

●講師 小山 貴(名誉教授)

●内容 互いの打ち合いでなく、一人でのシャドウボクシング、二人組の[ミット打ち]や指導者相手の打ち込みなどを体験していただきます。本物のグローブをはめて行います。受講者は軍手などの手袋を持参してください。

●日時 10/08(水) 10:40-12:10

●受講料 1,000円(全1回)

●持ち物 軍手などの手袋、トレーニングウェア、体育館シューズ、水分補給用飲み物、着替え等

10 日常生活に潜む比喩表現

●講師 初山 泰斗(国際教養学部講師)

●内容 私たちは普段から、「時は金なり」「パソコンのマウス」のように比喩を多く使用しています。本講座では、日常生活で何気なく使っているさまざまな比喩表現について、事例に基づいて言語学の観点から考察します。

●日時 10/17(金) 15:00-16:30

●受講料 1,000円(全1回)

11 アンデルセンと未明 ——『人魚姫』と『赤い蝋燭と人魚』

●講師 佐々木 さよ(教育学部教授)

●内容 子どもの頃、アンデルセンの『人魚姫』や小川未明の『赤い蝋燭と人魚』に涙した方は多いことでしょう。2作が描く〈異類の者＝人魚〉を通して人間社会や文化を考えましょう。

●日時 10/27(月) 13:00-14:30

●受講料 1,000円(全1回)

12 AIはアイアンマンのスーツか? ～人間の可能性を拡張する生成AI～

●講師 符 儒徳(国際教養学部教授)

●内容 AIは『アイアンマン』のスーツのように、人間を強化できるのか? 仕事・創作・生活支援における生成AIの活用事例を交え、誰もが安心の使い方からAI共生社会、そして未来の技術革新まで分かりやすく解説します。

●日時 11/28(金) 13:00-14:30

●受講料 1,000円(全1回)

13 東南アジアのヒンドゥー教と中国宗教

●講師 古賀 万由里(国際教養学部教授)

●内容 マレーシアとシンガポールには、イギリスの植民地時代に移住したインド人と中国人が数多く住んでいます。彼らが実践する祭礼から、両宗教の特徴と相違点、そして両者が混合していく様子を見ていきます。

●日時 12/04(木) 10:40-12:10

●受講料 1,000円(全1回)

14 不老不死を目指して～道教とは何か?～

●講師 三枝 秀子(教育学部教授)

●内容 人はいつから不老不死を求めるようになったのでしょうか? 中国の伝統宗教の一つ、道教にそれを解く鍵があります。道教は我々の日常生活の所々に溶け込んでいます。道教とは何か、一緒に探りましょう。

●日時 12/09(火) 14:40-16:10

●受講料 1,000円(全1回)

15 キャリア・デザインに活かす小倉百人一首の知恵

●講師 森谷 一経(国際教養学部教授)

●内容 古典文学には、キャリア・デザインに活かせる知恵が詰まっています。本講座では、百人一首の名歌を通じて人生の選択や努力の意義を考察し、現代の働き方や生き方に活かせるヒントを探ります。

●日時 12/25(木) 14:40-16:10

●受講料 1,000円(全1回)

2025 年度 開智国際大学「公開講座」報告

編集 開智国際大学 研究・図書・紀要委員会
発行 開智国際大学 〒277-0005 柏市柏 1225-6
Tel 04-7167-8655 Fax 04-7163-0096